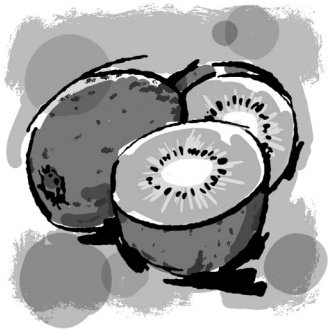
今週の
倫理

2023. 11. 18〜11. 24

11 月のテーマ ｜ 決心

1360号

決心を固めれば 自ずと道は開かれる



Ａ氏は大学卒業を間近に控えたある日、会社を経営する両親から、今後の会社の存続の件で話があると言われました。

会長職に就いている父親と、グループ会社の社長である母親から「すでに決まっている就職先を辞退し、うちの会社に入社してほしい」と告げられたのです。

さらに、短期大学を卒業する妹にも入社の了解を取ってあると伝えられ、妹からも「会社の経営が大変で、毎月の資金繰りが厳しいみたい。兄妹で力を合わせて助けてあげようよ」と言われました。

Ａ氏は、進級や進学を控えた中学生の妹と小学生の弟に金銭面で不自由させたくないと思い、両親の会社に妹と一緒に入社することにしました。また、両親が経営する会社なので、順調に進めば後継ぎ候補になるとの自覚と使命感もありました。

学生時代に同社でアルバイトをしていたＡ氏は、会社の状況をある程度は分かっているつもりでしたが、約五十名いた社員が半数近くまで減っていたことを知って驚きました。自分が生まれた年に創業した会社の経営状況は、坂道を転げ落ちるように悪化していたのでした。

Ａ氏の入社後、日を追うごとに社内の雰囲気が悪化していきました。〈こんな会社、早く整理すればいいのに〉との気持ちが社内に伝わったのか、両親だけでなく社員との関係も悪い方向に進んでしまったのです。

ある日、Ａ氏が得意先回りを終えて、夜遅く会社に戻ってきました。そこで、若手社員のＢ氏が、会社の玄関先で入口の電気を消した後、工場に向かって深々と頭を下げてから会社を跡にする姿を目にしたのです。Ｂ氏の職場への愛情や敬意が伝わってきて、Ａ氏は申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

入社以来、社員と良好な関係が築くことができず、特に両親に対しては、入社の経緯から感謝の気持ちを持つことができず背を向けていたことに気づき、〈お詫びして再出発しよう〉と決意したのでした。

翌日、会社へ出社してすぐに父と母にお詫びの言葉を伝え、社員に対しても一人ひとり頭を下げて回りました。

Ａ氏は、両親が子供四人を育て上げるために、懸命に仕事に取り組んできた姿を思い出しました。そして、会社に留まって頑張り続けてくれた社員に心から感謝し、今後は社内を活性化させることに全力を尽くそう、と決意を新たにしたのです。

その後、父が他界して母が代表者として社長の座に就きました。さらに、数年後には三代目のＡ氏へ経営のバトンがスムーズに引き継がれたのでした。

「事をなすの根本の力は信念である。決心の強いか弱いかによって、仕事の成否がきまるが、決心ということは、今までなかった事を、こうしようと信念を定めることである。（『万人幸福の栞』第十五条）

決心しなければ、実践につながりません。Ａ氏による両親や社員への謝罪の決断が、会社の命運を分けることになったのです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局